

# 帰国生受け入れ開始に続き、「グローバル教育部」を新設！ いまの時代の“新しい紳士”を育成

## 海城 中学校・高等学校



本校は、創立一〇〇周年を迎えた翌年の一九九二年を「改革元年」と位置付け、教育改革をスタート。現在は、「国家・社会に有為な人材を育成する」という建学の精神に立ち戻るとともに、いまの時代に適応できる「リベラルでフェアな精神」を持った「新しい紳士」育成の改革を押し進めています。本校の考える「時代が求める有為な人材」とは、「人間力と学力のバランスがとれた人間」です。しかも、それらは新しい時代が要請する「新しい人間力」と「新しい学力」を含み持つもの

のでなくてはなりません。新しい人間力を育むためアメリカ発の体験学習も現代は、人やモノ、資本、情報が国境を越えて行き交うグローバルな社会であり、多様な価値観が介在する社会です。そうした社会の中で生きていくには、互いの違いを理解・尊重する共生能力、つまりは対話的コミュニケーション能力が必須です。また、異質な者同士が互いの良いところを引き出し合い、新たな価値の創造をも可能にする、協働、コラボレーションの力が大切

です。そのため教育改革では、生徒会活動・学校行事・クラブ活動をより充実させたほか、アメリカで開発された体験型プログラムを九年前より導入しています。

●体験学習II PA(プロジェクトアドベンチャー)  
中学一・二学年に、課題を含んだアクティビティに挑みます。たとえば、丸太の上にランダムに乗った生徒たちが互いに言葉を発せずに生年月日順に並び直すといった課題では、コミュニケーション能力やコラボレーションの力を向上させていきます。また、自己の選択・意思に基づいて挑戦する、高所で恐怖感を伴う課題では、必ず仲間が命綱を握って支えます。それにより、人間が勇気を持って何かに挑戦するときには、信頼に裏打ちされた仲間のサポートが大切だということを学びます。

たとえば、班ごとに一人の人物から聞き書きをし、それに基づいて班員皆でシナリオを書き、ドラマとして演じます。一連の作業を通じて、生徒たちは人と人との異質性やイメージのすり合わせ・共有の術を学びます。この取り組みは、文部科学省の「児童生徒のコミュニケーション育成に資する芸術表現体験事業」に採択されています。

### 新しい学力「Critical Thinking」の力を育成

複雑化した現代社会では、難解な諸問題を解決する能力がいままで以上に求められます。そのため、従来の記憶暗記型の学力だけではなく、自ら課題を設定し、調査・熟考し、価値を判断し、分かりやすく伝えるといった「Critical Thinking」の力を育成することが必要なのです。

### ●各所で高い評価を得る「社会科総合学習」

中一から中三まで、週二



「グローバル教育部」を開設。海外での貴重な生活・学習体験を持った世界各国からの帰国生の力を最大限に保持・伸長できる体制を整えていきます。先進国と位置付けられる日本における進学校として、インターナショナルスクールでもなく、IB認定校でもない「第三の道」を進みながら、グローバルな人材を育成すること。それが、本校の思い描く未来です。

●「グローバル教育部」における主な取り組み  
①語学力の保持・伸長  
高い英語力を持つ生徒対象に英語ネイティブ教員による放課後の特別講習を行うほか、日本語の補習など教科支援を拡充させます。

②高レベルでの海外交流  
中学(アメリカ)、高校(イギリス)で実施している本校独自の海外研修をより充実したものにするとともに、在学中の留学を支援するなど、海外に目を向ける生徒の便宜を図っていきます。

③海外大学への進学支援  
大学進学に際しては、海外の大学も選択肢の一つとして考えられるように、「TOEFL」や「SAT」の対策や書類作成など、さまざまな面において支援していきます。

④ぶ厚いリベラルアーツ  
ここぞというときに、ぶれることのない真のグローバルリーダーを養成するべく、世界で高い評価を得るIB®のカリキュラムも参照・研究しつつ、教養教育を充実させ、哲学的な思考力や社会的なフエアネスの精神を涵養します。

時間の「社会科総合学習」の時間では、レポートのテーマを自ら設定し、文献を調べ、企業などへ取材し、執筆し、発表します。中三の卒論は、日本経済新聞など多くのメディアで取り上げられるほどの出来栄です。

●第一線で活躍する先輩による「キャリア教育」  
将来を見据える力や学習意欲の向上を図るため、「プロフェッショナルとは」といったようなテーマで講演を開催しています。講演者は、財務官僚や企業経営者、大学院の理系の博士課程で学

ぶ者など、社会の第一線で活躍する方や、研究の最前線で学ぶ卒業生たちです。

「帰国生入試開始」に続き「グローバル教育部」開設  
これまでに述べた「共生教育」を一層推し進め、世界で活躍するグローバル人材の育成を図るため、昨年度から中学での「帰国生受け入れ」を開始した本校ですが、国際化がますます進む現代において、歩みを止めることはありません。今年度は、既存の「帰国生支援室」を取り込むかたちで

「グローバル教育部」を開設。海外での貴重な生活・学習体験を持った世界各国からの帰国生の力を最大限に保持・伸長できる体制を整えていきます。先進国と位置付けられる日本における進学校として、インターナショナルスクールでもなく、IB認定校でもない「第三の道」を進みながら、グローバルな人材を育成すること。それが、本校の思い描く未来です。

●「グローバル教育部」における主な取り組み  
①語学力の保持・伸長

**海城 中学校・高等学校**  
男子校 中編 中転

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1  
<http://www.kaijo.ed.jp/>

帰国生入試 生徒募集要項	
募集人員	男子30名
応募資格	①平成25年3月小学校卒業見込みの方。②同居の保護者、または保護者の認める成人のもとから通学できる方。③平成19年4月1日から平成25年3月31日までの間に2年以上海外に在住し、かつ、平成22年7月1日以降に帰国した方。◇帰国生の受験者は、一般入試①・一般入試②も受験可能です。
試験日	平成25年1月7日(月)
科目	Aコース/算数・国語・社会・理科 面接(10分程度・受験生のみ) Bコース/算数・総合 面接(10分程度・受験生のみ) ※Aコース・Bコースどちらか選択。算数はA、Bコース共通問題 ※面接時に「生活していた国や地域と日本との違い」について2分程度のスピーチあり

12年度 大学合格実績 ( )は現役	
国立大学	47(34)
京都大学	12(5)
東京大学	13(11)
東京工業大学	15(7)
一橋大学	34(23)
国立医学部	224(112)
私立大学	
早稲田大学	224(112)

※国立医学部には東大理Ⅲ  
4.京大医1を含む。  
※上記は、5月31日現在判明分からの抜粋。